

掛川市「考古の日」記念・掛川市制50周年記念

第19回  
出土文化財展

とき：平成16年5月25日（火）～30日（日）  
ところ：掛川市立中央図書館 生涯学習ホール



八坂別所遺跡で発見された道路遺構（基礎部分）

2004

掛川市教育委員会

# たかだ 高田遺跡

1. 調査地
2. 調査の原因
3. 調査の面積
4. 調査の期間
5. 調査の内容

掛川市吉岡字真黒坂 1220、1221

茶園改植に伴う本発掘調査

900 m<sup>2</sup>

平成15年7月～12月

調査は、高田原の東側縁辺で行われました。調査では、後世の開墾によって一部こわされていましたが、弥生時代後期から古墳時代前期(約1,800～1,700年前)の集落跡と古墳時代中期(約1,650年前)の古墳が見つかりました。

集落跡関係では、堅穴住居跡12軒、掘立柱建物跡2棟が見つかりました。掘立柱建物跡は、収穫した米などを貯える高床倉庫と考えられます。堅穴住居跡内などから、弥生時代後期から古墳時代前期に使われた壺や甕などの土器が多く出土しました。

古墳関係では、直径9mの円墳1基と一辺9m前後の方墳4基が見つかりました。古墳の造られた時期は、出土した遺物の内容から、古墳時代中期(約1,650年前)であることがわかりました。今回発見した古墳は、近くにある東登口古墳群に含まれるもので、同じ5世紀代に造られた和田岡古墳群を構成する古墳とみると、当時の社会を知るための貴重な発見であったと思います。



堅穴住居跡（南から）



堅穴住居跡（東から）



調査地全景（空中写真：上が東）



1号墳（方墳）と堅穴住居跡（南から）



2号墳と竪穴住居跡（南から）



竪穴住居跡内の炉跡



高床倉庫跡（南から）



土器の出土状態



土器の出土状態

# やさかべつしょ 八坂別所遺跡

1. 調査地 掛川市八坂161-1ほか
2. 調査の原因 農免農道整備事業
3. 調査の面積 1,000m<sup>2</sup>
4. 調査の期間 平成15年9月～平成16年3月
5. 調査の内容 調査では、奈良時代(約1,300年前)の、自然の流路と考えられる溝7、掘立柱建物跡1、道路遺構などを発見しました。また、遺物は、弥生土器、土師器、須恵器などの土器、木製品のほか、瓦片1個と和同開珎1片が出土しています。

なお、和同開珎は、708年に日本で正式につくられた最初の貨幣で、県内では7例目の発見となりました。瓦は、当時の役所や寺院の建物にしか使われないものですから、調査地の近くにこうした施設に関する遺跡があると思われます。この他、出土した遺物の中に、役所などの公共施設や寺院などで出土する墨書き土器（墨で文字などが書かれた土器）が含まれているのは、それを裏付けていると思われます。

調査地西端部分で見つかった道路遺構は、南北方向に向かうものと考えられます。調査地内で5mの幅がありますが、道路西端が調査地外にあることから、全体の道幅は不明です。調査内容から、豊かな知識と高い技術によって築かれたことがわかりますので、国家的な事業で造られたことが想像されます。また、調査地付近に古代東海道が通っていたことが予想されることから、発見した道路遺構は古代東海道である可能性があります。



調査地の周辺のようす（南から）【矢印が調査地】



道路遺構の下部のようす(木の板が敷き並べられていた) (西から)



道路遺構上面 (南から)



調査地全景 (南上方から)



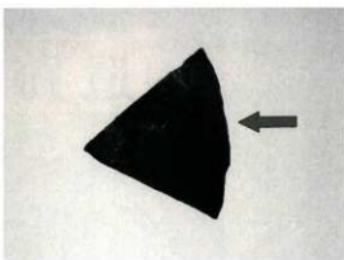
自然流路 (北から)



掘立柱建物跡 (南から)



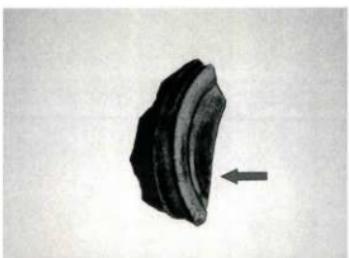
和同開珎



墨書土器（「上井」）



墨書土器（「女平」）



墨書土器（「壹？口（不明）」）

## 開発予定地内に遺跡はありませんか? 工事計画の前に確認してください。

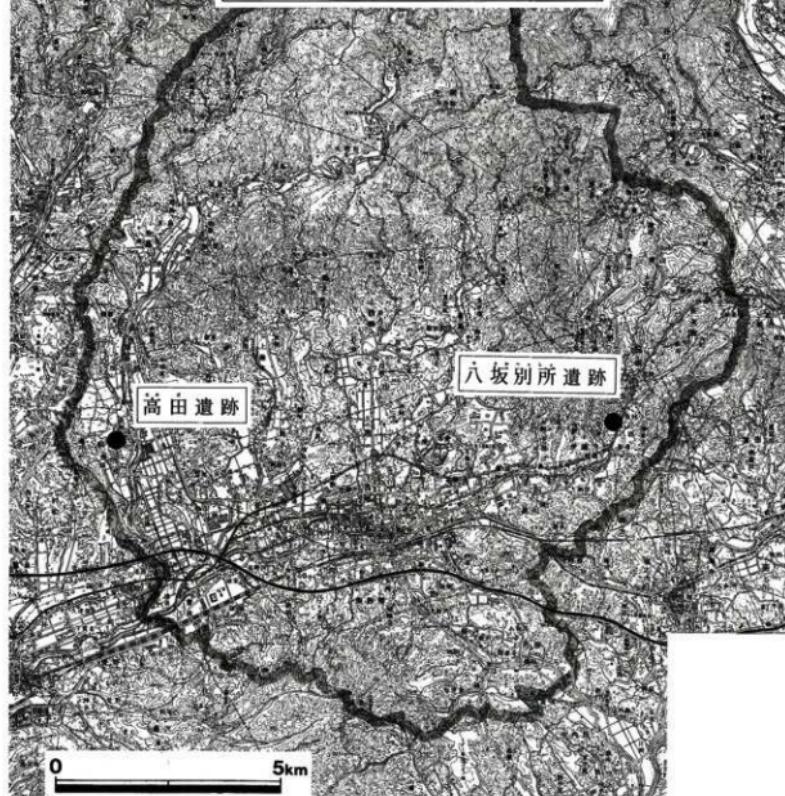
掛川市内には現在520もの遺跡が知られており、県内でいちばん遺跡の多い市だといわれています。遺跡（埋蔵文化財）は、私たちの“心のふるさと”であり、後世の人たちに伝えていくことが大切です。

そのため、『文化財保護法』により、遺跡のある場所で、土木工事や建築工事、茶園の改植などをする場合には、事前に文化庁に届け出をすることが義務づけられています。

届け出をせずに工事を始めたところ、遺跡が見つかったため調査をすることになり、完成が遅れてしまった。ということがないように、工事を計画する場合には、早めに掛川市教育委員会教育文化課にご相談ください。

なお、教育委員会や図書館には、市内にある遺跡の様子を示した『掛川市遺跡地図』がありますので、工事を計画する前に必ず確認してください。

# 遺跡位置図



## 掛川市「考古の日」

明和 9 年(1772) 5 月 21 日(陰暦)、現在の長谷字小出ヶ谷地区において銅鐸一口が発見され、掛川藩に届出されました。これは、現在の文化財保護法の遺物の発見届と同じことで、この日を記念して、市民の埋蔵文化財に対する理解と保護・保存しようとする意識の向上を願い、毎年 5 月 21 日を掛川市「考古の日」として設定しました。



文化財愛護シンボルマーク